

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 30 年 2 月号



【伊都振興局】2/20 伊都地方イチゴ研修会を開催

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



I 海草振興局	1
1. 和海地方農業士会が県外研修会を実施	
II 那賀振興局	2 - 4
1. 岩出市農業士会現地研修会を実施	
2. 滋賀・愛知・三重へ先進地研修 ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
3. 那賀地方農業士協議会県外研修会を実施	
III 伊都振興局	5 - 8
1. 柿「刀根早生」の摘蕾省力技術の3年間連年処理を実施	
2. 伊都地方イチゴ研修会を開催	
3. 伊都地方農業振興協議会が先進地研修を開催	
4. 伊都地方農業士連絡協議会が経営事例発表会を開催	
IV 有田振興局	9 - 12
1. 農業経営セミナーならびに温州みかん剪定研修会	
2. 有田地方農業者団体連絡協議会が研修会を開催！	
3. 広川町生活研究グループが味自慢大会 ～地元の特産品をいかして～を開催！	
4. 有田農業女子プロジェクト第3回研修会を開催！	
V 日高振興局	13 - 17
1. 平成29年度日高地方青年農業者会議を開催	
2. 日高地方農業士会女性部会が現地研修を実施	
3. 日高地方「花き品評会」、「花き展示会」を開催	
4. シカレディースがシカ肉のPR活動！	
5. 印南町農業士会で地域農業に関して意見交換を行う座談会を開催	
6. 日高地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を実施！	

VI 西牟婁振興局	18-22
1. アグリビギナー研修（野菜、農機具）を開催しました	
2. 平成 29 年度西牟婁地方農業士会連絡協議会経営研修会を開催	
3. 田辺生活研究グループ連絡協議会が「ジビエ料理」を PR	
4. 茶摘みへ向けて、春整枝！	
5. 田辺生活研究グループ連絡協議会が加工講習会を開催	
6. 第 3 回女性起業支援研修会を開催	
7. 鮎川小学校で地元農産物を使った料理講習会を実施	
VII 東牟婁振興局	23-24
1. 農業機械安全研修会を開催	
2. アグリビギナー農業経営研修会を開催	
VIII 農林大学校	25
1. 農学部果樹コースが県内研修を実施	
IX 農林大学校 就農支援センター	26-27
1. 平成 29 年度技術修得研修(第 2 班)が修了	
2. 社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了式を開催	
3. 特別研修「果樹の接ぎ木」を開催	
4. U I ターン就農相談フェア in 和歌山を開催	
X 経営支援課（農業革新支援センター）	28-30
1. むらとくらしを考える会議を開催	
2. 平成 29 年度和歌山県青年農業者会議が開催されました	
3. 県農林水産業のリーダーを認定	
～ 平成 29 年度農業士・林業士・漁業士認定式を開催 ～	

I 海草振興局

1. 和海地方農業士会が県外研修会を実施

2月23日に和海地方農業士会（宮尾修司会長）が大阪府内で鳥獣害対策と6次産業化に関する研修を行い、12名が出席した。

鳥獣害対策機器メーカーのタイガー株式会社（吹田市）では、イノシシ、シカの生態やそれを踏まえた対策、また電気柵の効果的な設置方法、モグラについての生態や対策についての説明を受けた。それぞれの害獣を捕獲する際のコツを知ることができたほか、ワナや電気柵の設置だけでなく、周辺環境を整備する重要性についても知ることができた。

次に農園 杉・五兵衛（枚方市）で研修を受けた。まず自家栽培の野菜がふんだんに使われた「農園会席」（昼食）を頂いた後、園主の野島五兵衛さんから話を聞いた。

野島さんの、「就農時の47年前には収益が上がらず、苦勞をした。その時に農の価値が正當に評価されないことに疑問を感じ、正當な評価をしてもらうためにはどうしたら良いかを考えて、農園に都市住民を招いて、感動を与え、適正な価格で買ってもらうとともに、農園で採れたもので食事を提供し、喜んで帰ってもらうことを目指した。周りから反対もあったが、押し切ってやり遂げ、収益が大幅に増加して成功した。今は除草剤、殺虫剤を使用しない、安全・安心な農産物の提供に努めている。」との話に、一同が野島さんの先見の明に驚くと共に行動力に感心した。

当課では、今後とも先進地研修や各種情報の提供を通じて、農業振興、地域振興に寄与するよう努めていきたい。



(株)タイガーでの鳥獣害対策の研修



杉・五兵衛での園主の話を聞く様子

Ⅱ 那賀振興局

1. 岩出市農業士会現地研修会を実施

2月2日、岩出市農業士会（会長 林紀宏）は、会員相互の技術研鑽を図るため、農業試験場暖地園芸センターと西岡純一郎氏（御坊市塩屋町 指導農業士）のスターチスのハウスで現地研修を行い、会員7名が参加した。

暖地園芸センターでは、藤岡所長より、地域の特性を生かした収益性の高い農業振興を目指して、スターチスやカスミソウなどの花きやエンドウなどの野菜の栽培技術開発、県オリジナル品種の育成や種苗生産などの試験研究に取り組んでいる、と説明があり、非常に参考となった。また、楠育種部長の案内によりガラス温室などを見学した。

西岡氏からは、約20年前から施設の切り花栽培（1ha 大部分はスターチス）を中心に、野菜（40a 小玉スイカ）、水稲（80a）の複合経営を行っているとの説明があった。名田町の北に位置する塩屋町は、名田町と比べて冬期の気温が低いためハウス内が氷点下にならないよう若干の加温をしているが、ハウスを閉めると灰色カビ病が発生するため、循環扇を県単事業（野菜花き産地総合支援事業）で導入しているとのことだった。参加者からは、スターチスの収穫本数、収穫時期などについて熱心に質問がなされていた。



暖地園芸センターでの研修風景



西岡氏のハウス前での説明

2. 滋賀・愛知・三重へ先進地研修

～紀の川市環境保全型農業グループ～

紀の川市環境保全型農業グループ（会長 畑敏之）は、2月22日～23日に滋賀県、愛知県及び三重県の農家や農業団体等4か所を視察し、13名が参加した。

始めに見学した滋賀県の大中農友会は、5戸の生産者が集まって有機栽培を実践している。全員で30haもの広大な干拓地で農業を行っており、収穫以外は機械化により一括管理していた。田植機に肥料散布機をつけるなど、使いやすいよう改造している機械もあった。

次に滋賀県で初めてJGAPを取得した浅小井農園を訪れた。同農園は80aのハウスでトマトを栽培している。ハウス内外、集荷スペース等、すべて整理整頓が行き届いており、栽培から出荷まで作業がしやすい環境であると感じた。

2日目の午前中は、愛知県の株式会社萬秀フルーツを見学した。1.3haの栽培面積のうちの多くがハウスでの果樹栽培であり、ミカン、晩柑類、グレープフルーツ、バナナ、ブルーベリー等多種多品目が栽培されていた。また、そのほとんどでオーナー制を導入し、柑橘3万円/本（年間）、グレープフルーツ5万円/本（年間）で消費者と契約している。グレープフルーツを導入したきっかけは、温州萎縮病によりミカンの面積を減らしたことであった。そのよう中、消費者ニーズに応える新たな品目を模索しており、マーケットを一から確立する必要のある品目では大変であるため、外国産で国内マーケットが確立されているグレープフルーツが選択肢にあがったとのことだった。

午後には、三重県の近藤けいこナチュラルベジタブルを見学した。同農園は女性8名で経営しており、取引先はレストランが86社、個客200軒に宅配している。3haの農地は半分休耕、半分稼働しており、西洋野菜やハーブも含め、年間500種類もの野菜を栽培している。また、種子は自家採取しているとのことであった。特に女性の参加者は、とても刺激を受けたと話していた。

いずれの研修先でも参考になることが非常に多く、参加者はとても勉強になったと話していた。農業水産振興課は、今後も会員が望むような研修会を開催していく。



萬秀フルーツのバナナ園を見学



少量多品目の近藤けいこ氏の園地

3. 那賀地方農業士協議会県外研修会を実施

2月22日、那賀地方農業士協議会(会長 飯田 勝)は、会員の技術研鑽を図るため、(株)アクアイグニスのコンフィチュールアッシュ(三重県三重郡菰野町菰野)や伊賀の里モクモク手づくりファーム(三重県伊賀市)を視察した。会員、関係機関33名が参加した。

(株)アクアイグニスの立花哲也社長と有名パティシェ・辻口博啓氏らは、2012年10月から三重県菰野町でリゾート施設を経営しており、目玉は、地元の季節のフルーツを使ったケーキ、焼き菓子などを扱う「コンフィチュールアッシュ」という店舗。視察した辻口氏のいちご園は、高設栽培で面積が2600㎡、2万株を減農薬、有機肥料を使用して栽培しており、防除には天敵を利用し、加温には温泉水をかけ流ししていると説明があった。参加者からは、栽培品種、温泉水活用、ハウス内の管理などについて多数の質問が上がっていた。

伊賀の里モクモク手づくりファームでは、松尾社長から説明を受けた。1987年4月に養豚農家を中心に「ハム工房モクモク」を創業したが、当時はハム製品は売れず、体験教室を始めると予約があるが、冬場になると来場者が増えない状況であったとのことだった。その後、1995年7月の工房公園「モクモク手づくりファーム」オープンと同時に、東海三県で初の地ビール工房も創業を開始し、マスコミへの露出や珍しい商品の開発、イベントを繰り返した結果、モクモクファームが広く知られるようになったそうだ。

現在は、(株)伊賀の里モクモク手づくりファームでは、直営農場・連携農業、ハム・ソーセージ等のものづくり、さまざまな体験ができる農業公園、(株)農業法人モクモクでは、通信販売・ギフト販売、農場レストラン、手づくりお惣菜店の経営により、年間来園者は35万人、年間売上は約51億円にもなっている。

参加者は、モクモクファームの管理、職員、パート・アルバイトの確保などについて、熱心に質問を行っていた。



コンフィチュールアッシュの全景



辻口氏のいちご園

Ⅲ 伊都振興局

1. 柿「刀根早生」の摘蕾省力技術の3年間連年処理を実施

農業水産振興課では、平成28年から九度山町内の「刀根早生」園地において、結果母枝の切り返しによる摘蕾省力技術実証を行っている。連年処理の影響を確認するため、2月26日に処理を行い、作業性或基礎データの採取を行った。

過去2年の処理では、1樹あたり約200本の結果母枝のうち4～5割の母枝に対して切り返しを実施したところ、摘蕾作業時間が20～25%程度短縮された。一方、樹によっては樹勢が強くなる傾向が認められた。今回の処理も過去2年と同一樹に実施し、連年処理の可否や摘蕾省力効果の安定性について確認を行う予定としている。

今後、摘蕾作業や樹勢および収量への影響について調査を行い、経営面積の大きい農家を中心に省力化技術の普及を進めていく。



供試樹への切り返し処理



せん除した母枝先端
(おおむね1～4芽をせん除)

2. 伊都地方イチゴ研修会を開催

2月20日、農業水産振興課ではイチゴの県産オリジナル品種の栽培を推進するため、管内の生産者（出席者10名）を対象に和歌山県農業共済組合伊都出張所および現地イチゴ栽培ほ場で研修会を開催した。

農業試験場東主任研究員から「紀の香」の特性、「まりひめ」の炭酸ガス施用技術、いちご炭疽病の防除対策や摘果技術等についての技術紹介が行われ、参加者は熱心に講演を聴いていた。その後、新品種「紀の香」の試作に取り組んでいる木村はるみ氏のほ場（かつらぎ町）に移動し、現地検討会を行った。

現地検討会では、木村氏から「紀の香」の生育について生産者視点での説明が行われた。続いて当課から「まりひめ」を対照として「紀の香」の生育調査を行った結果、「紀の香」は冬期の寒さの影響をより強く受ける事、振興局内で「紀の香」の食味アンケート結果について情報提供を行った。その後、参加者による意見交換と「まりひめ」「紀の香」の試食を行った。

参加者から「紀の香は、花が連続してあがってくる」、「食味が良い点が評価されるが、果

形や見た目は、まりひめに引けを取る」、「果形が丸いため、パック詰めが難しい」などの意見が出された。

また、意見交換の中で「まりひめ」は春先に一時期果実品質が悪くなる点との意見があり、東主任研究員から「芽かき及び冬から春にかけての温度差を抑えた管理を心がけると品質低下の影響を減らせる」との対策技術の紹介があった。

当課では、今後も研修会や現地指導を通じ、イチゴ生産者への支援を行い、産地活性化に向けた取組を行って行く。



農業試験場 東主任研究員による講演



「紀の香」を試作しての感想を述べる木村氏

3. 伊都地方農業振興協議会が先進地研修を開催

2月1日～2日、伊都地方農業振興協議会（構成員：各市町・J A・農業共済・振興局、会長：井本泰造）は、関係者10名が地域農業の担い手育成や農業者支援の取り組みについて先進事例である愛媛県を訪問し、事例調査を実施した。

2月1日はJ Aえひめ中央営農部 高木真司氏から新規就農者に対する研修の取り組みについて聞き取りを行った。また、耕作放棄地等の整備事業を活用した園地整備の取り組みや研修生への農地の斡旋、農作業サポートセンターの設置による農作業支援者を募集・紹介などの取り組みも紹介された。出席者から「研修生への指導方法は？」「研修生が卒業した後のサポートは？」「圃場整備事業の内容は？」など様々な質問が出た。

2月2日は愛媛県八幡浜支局地域農業室 山本泰生氏とJ Aにしろわ農業振興部 河野晃範氏から八幡浜市内での担い手・援農システムについて聞き取りを行った。農林水産省の援農隊マッチング事業を活用した労力確保や担い手の確保等の取り組み、企業等による地域貢献活動の活用、県内外の大学との連携、宿泊・合宿施設「マンダリン」の開設・運営について説明があった。出席者から「関係機関での情報共有はどのように行っているのか？」「宿泊施設の運営方法は？」など多くの質問が出ていた。

今回、視察を行った愛媛県の取り組みは全国でも先進的な事例である。今後、伊都地方農業振興協議会で当地域に適した担い手支援の取り組みを検討していく。



研修ほ場で J A えひめ中央高木氏
から説明



J A えひめの管理する片屋根ハウス
で紅まどんな等を栽培



愛媛県山本氏と JA にしうわ河野氏
から説明



みかんの里宿泊・合宿施設「マンダリン」
廃校となった小学校を活用

4. 伊都地方農業士連絡協議会が経営事例発表会を開催

2月7日、伊都地方農業士連絡協議会（会長：廣田哲也）の研修会が伊都振興局で開催され、農業士、4Hクラブ、新規就農者、市町等の関係者ら45名が出席した。

初めに、伊都地方の農業の現状と今後の取り組み（大東普及指導員）、農業者年金制度（県農業会議 向井元治氏）の講話に続いて、指導農業士の森口佳幸氏（橋本市）、藤井栄一氏（九度山町）、西垣俊秀氏（かつらぎ町）の順に自身の経営概要、今後の経営方針について発表した。

続いて、池田泰子副会長（橋本市）の進行で廣田会長、発表者3名と若手農業者との意見交換を実施。4Hクラブ員や新規就農者から自分の経営内容や困っていることについて意見が出され、農業士から「野菜は種類が多いので早く自分に合った品目を見つけること」などのアドバイスがあった。

農業水産振興課では、今後も農業士と新規就農者や若手農業者との交流を推進し、本協議会が地域農業の活性化や就農支援の一役を担えるように支援していく。



農業士による経営事例発表



若手農業者との意見交換

IV 有田振興局

1. 農業経営セミナーならびに温州みかん剪定研修会

就農して間もない農業者を対象に実施している「アグリビギナー等技術経営研修」の第4回を2月2日に実施し、新規就農者や4Hクラブ員ら15名が参加した。

農業経営セミナーについては、県担い手育成総合支援協議会と（一社）県農業会議が実施するブロック別農業経営セミナーを受講し、農業経営コンサルタントで税理士の宮本文也氏より、「農業」の記帳と税務と経営について、減価償却資産の取り扱い、青色申告や消費税等を中心に説明が行われた。

温州みかんの剪定については、上山普及指導員が剪定の目的や方法について説明した後、指導農業士の嶋田勝彦氏（有田川町）の園地に移動し、本年の着果見込み量の多い樹、少ない樹および苗木について、剪定の実演が行われた。

質疑応答後、参加者がそれぞれ1本の樹を決め、嶋田氏や当課の職員と意見交換しながら剪定を実践した。

本年は、着果量の多い樹が大部分と思われ、参加者からは「来年着果させる枝を出すには、どのように剪定すれば良いのか」という質問が中心だった。

3月に、今年度最後の研修として、苗木の植え付けに関する研修を予定している。



「農業」の記帳と税務と経営について



温州みかんの剪定について



剪定の実演



意見交換しながら、
参加者が剪定を実践

2. 有田地方農業者団体連絡協議会が研修会を開催！

2月6日、有田市の鮎茶屋において、有田地方農業士協議会、有田地方生活研究グループ連絡協議会、有田地方4Hクラブ連絡協議会の3団体で組織する「有田地方農業者団体連絡協議会（会長：嶋田 勝彦 氏）」による研修会が開催され、関係者を含め65名が参加した。

「地域づくりへの取り組み」をテーマに、地元のマルケン共選組合組合長 永石 睦巳 氏と愛媛県西予市の農事組合法人無茶々園（むちゃちゃえん）理事 宇都宮 俊文 氏の2名を迎えて講演会を行った。

まず、永石氏より、「マルケン共選組合の取り組みについて」と題し、高品質安定生産への取り組みをはじめ、重労働であった家庭選別をなくすために始めた「山選り（やまより）収穫」や多彩なパッケージングによる個性化商品の販売、また、市場や消費者等と共に歩む「Team マルケン」の考え方などについて講演が行われた。

次に、宇都宮氏より、「農事組合法人 無茶々園の地域づくりへの取り組みについて」と題し、昭和49年に当時20代の後継者3名による伊予柑の有機栽培から始まった「無茶々園」の取り組みが、法人化を経て地域づくりにつながっていく経緯などについて講演が行われた。

参加者からは、「なぜ法人化の形態を農事組合法人としているのか?」、「今後、コミュニティビジネスをどの様に展開していくのか?」といった質問が出された。

今回の研修を通じて、参加者は地域づくりの大切さ、また難しさを改めて認識し、今後の地元における地域づくり活動への参考になったと思われた。

今後も農業水産振興課では地域農業の振興のため、3団体の活動を支援していく。



永石氏による講演



宇都宮氏による講演

3. 広川町生活研究グループが味自慢大会～地元の特産品をいかして～を開催！

2月19日、広川町生活研究グループ（会長：沖美枝子氏）は、広川町民会館において地元の食材をふんだんに利用した「味自慢大会」を開催し、会員や関係者合わせて13名が出席した。

今回のテーマは「我が家の自慢の料理」で、あさりごはんやゴボウの揚げ物の他、同グループ加工部が製造・販売している米麴や味噌を利用した、白身魚の塩麴漬けや味噌汁など

12 品目の料理が並んだ。また、デザートには会員が栽培している“まりひめ”も登場した。

料理はbuffet形式で試食し、それぞれの料理の味付け等について、来賓で参加した振興局農林水産振興部長らと交えて意見交換を行った。



4 グループに分かれて調理



地元の農産物を利用した料理

4. 有田農業女子プロジェクト第3回研修会を開催！

2月27日、果樹試験場の会議室及び農機具庫にて「有田農業女子プロジェクト第3回研修会」を開催し、管内の概ね45歳以下の農業女子26名及び女性農業士5名が参加した。本イベントの目的は、普段あまり交わりのない農業女子同士が交流することで知り合いの輪を広げ、農業についての知識や技術を身につける場をつくることである。

研修会では、まず有限会社 三木鉄工所（有田川町、農業機械の販売修理）の三木宏之氏を講師に招き、「農業機械・農作業安全」をテーマに、刈払い機やモノラック等の日頃のメンテナンス方法や注意するポイントについて学んだ。また、新型の鳥獣捕獲装置の紹介もあった。

意見交換会では、株式会社 ユニワールド（有田市、農作業着等のメーカー）の川口裕司氏ら4名を招き、実際の商品を見ながら「農作業時の服装にこだわりはありますか？」や「あったらいいな、こんな作業着・小物」等について話し合った。

各グループにインタビューした結果、「ゆきぼうを被るのが嫌。花柄だと自分が30歳以上老けたように感じる」、「農薬の臭いがつくのが気になる」といった意見があった。マダニ対策について話し合っているグループもあった。アンケートでは「農業に対する考え方や向き合い方などを他の人から聞けるよい機会だと思う」や「研修の時間を長くしてほしい」等の意見・要望が寄せられた。

農業水産振興課では、地域をより活性化するため、今後も女性農業者の活動支援に力を入れていく。



三木氏による研修



川口氏らも交えて意見交換会



(株) ユニワールドの商品展示



当日の参加者（農業女子、女性農業士）

V 日高振興局

1. 平成 29 年度日高地方青年農業者会議を開催

2月1日、印南町公民館大ホールにおいて、日高地方4Hクラブ連絡協議会（西山和克会長）と振興局農林水産振興部の共催で、平成29年度日高地方青年農業者会議を開催した。この会議は日高地方の各市町4Hクラブがプロジェクト活動をまとめ、発表、議論し、新しい農業及び農村づくりに役立てることを目的として開催されている。

今回は、プロジェクト発表3課題、意見発表1課題の合計4課題の発表があった。

プロジェクト発表については、御坊市、印南町、みなべ町の4Hクラブから1課題ずつ発表があった。御坊市4Hクラブは「スターチス栽培における固化培地苗の利用」というタイトルで、新育苗技術である固化培地苗を導入したスターチス栽培の評価について、印南町4Hクラブは「UNDER HEART PROJECT」というタイトルで、若い男女が花をプレゼントすることへの意識調査について、みなべ梅郷クラブは「梅の新品種 生育調査と食味調査」というタイトルで、新品種である「翠香」、「橙高」、「露茜」の生育調査及び梅シロップの食味調査結果について発表した。

意見発表については、印南町4Hクラブの新谷力氏から、「あの時の出会いで今がある」と題して発表があり、地域への愛情、仲間との出会い、新たな品目の導入による地域の活性化への思いが発表された。

それぞれの発表に対して審査員（普及指導協力委員、南部高校教諭、農林大学校就農支援センター職員、農業水産振興課長）から、目的や成果、今後の展望等についての質問が出され、活発な議論がなされた。特に意見発表に対する評価が高く、「今後は、多数の発表を望む」という声が強かった。

発表後には、研修会として山本普及指導員から「獣害対策について」の講演を行い、イノシシ等の獣害対策について説明を行った。

研修会後には、表彰式が行われ、印南町4Hクラブの「UNDER HEART PROJECT」が最優秀賞を受賞した。

今回発表した4課題については、2月13日に湯浅町総合センター（湯浅町）で開催された県青年農業者会議に出場し、意見発表を行った新谷力氏が優秀賞を受賞した。



プロジェクト発表



各クラブの発表者

2. 日高地方農業士会女性部会が現地研修を実施

2月2日、日高地方農業士会女性部会（鶴尾安代部会長）は、御坊市で会員のほ場見学などの現地研修を実施し、会員14名が参加した。

最初に、御坊市財部にあるミニトマト栽培園（園主：指導農業士 最明あけみ氏）において研修を行った。ミニトマト「アイコ」の栽培や房どりミニトマトのロックウール栽培のハウスを見学し、ミニトマト栽培の経緯、栽培管理・出荷等について研修した。

次に、御坊市名田町楠井のダリア園（園主：地域農業士 菊地晴美氏）において、品種、電照、芽かき作業等の栽培管理、出荷等について研修した。

午後からは、JA紀州がいなポートに移動し、集出荷施設を視察した後、同JA代表理事専務理事の芝光洋氏から「わがJAの営農経済事業の取り組み経過と課題」と題して事業改革や農家所得向上等の取り組みについて、講話をしていただき理解を深めた。その後、同JAくらしの活動課の職員の講師により、ダリアやスターチスなど地元産の花を使ったフラワーアレンジメントの実習を行った。

参加会員からは、「会員の交流を深めることができ、大変有意義であり、現地研修会を続けていきたい」との感想が多く出された。



ミニトマトのロックウール栽培見学



ダリア栽培の見学



JA専務理事の講話



フラワーアレンジメントの実習

3. 日高地方「花き品評会」、「花き展示会」を開催

日高地方花き連合会（佐藤公彦会長）は、昨年に引き続き J A 紀州がいなポートで「花き品評会」、翌日にオークワロマンシティ御坊店で「花き展示会」を開催した。

いずれも第2回目で、2月9日に開催した「花き品評会」には、64点の切り花や切り枝が出展され、青年農業士の前田昌紀さん（御坊市）のスターチス「フェアリーピンク」、浜田正さん（御坊市）のシュッコンカスミソウ「ホワイトベール」、山本修功さん（御坊市）のバラ「アバランチェ」が金賞を受賞したほか、入賞として銀賞5点、銅賞7点が選ばれた。

「花き展示会」には、品評会の入賞品を中心に日高地方の代表的な花き28点を展示し、花き連合会の活動を紹介するポスター掲示とともに、買い物客らに「母の日参り」や「フラワーバレンタイン」の啓発、花束のプレゼントを行い、日高地方が全国有数の花の産地であることや花の消費拡大を訴えた。会員の説明に耳を傾け「地元でこんなにたくさんの花が作られていることを知って驚きました。」と話す来場者もみられた。



品評会の出品物を鑑賞する生産者



花束をプレゼントして日高の花をPR

4. シカレディースがシカ肉のPR活動！

2月11日、日高川町農業祭にて、シカレディース（後藤明子隊長）がシカ肉料理のPR活動を行った。シカレディースは日高地方生活研究グループ連絡協議会の有志で結成された団体で、今回は4名が出動した。日高川町農業祭でのPR活動は今年で5年目となる。

今年は例年までとメニューを変えて、シカ肉の燻製の試食を提供した。試食した来場者からは、「シカ肉だとわからない」、「臭みもないし硬くもない」、「初めて食べたが、おいしい」など、様々な感想が聞かれた。昨年まではシカ肉の梅酒煮を提供しており、女性からの評価が高かったが、燻製は男性にも人気が高く、「ビールに良く合いそう」との感想が多かった。

隊員はこのような感想を受け、今後シカ肉の燻製をもっと簡単に作ることはできないか、もっと知ってもらえるようにできないかと話し合っており、シカ肉PRの新たなメニュー開発の意欲が高まった。



シカ肉の燻製



燻製のPR

5. 印南町農業士会で地域農業に関して意見交換を行う座談会を開催

2月15日に印南町の辻井旅館にて、印南町農業士会(尾曾紀文会長)が印南町内の農業や地域における課題等を話し合う地域農業振興座談会を開催した。

印南町農業士会の会員13名が参加し、会員が「稲原・切目川」「印南」「切目」の地域グループに分かれ『印南町農業や各地域における課題とその解決策』をテーマに意見交換を行った。出された意見は各地域における意見・課題としてまとめ、発表を行い、全体で討議した。

会員からは「地域により農業経営の形態は異なる。町内地域の抱える課題について話ができ良かった」「農業に関してゆっくりみんなで話し合う機会はあまりなかったため、大変おもしろかった」などの意見が聞かれた。



意見交換

6. 日高地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を実施！

2月28日、印南町公民館にて、日高地方生活研究グループ連絡協議会(後藤明子会長)がリーダー研修会を開催し、会員23名が出席した。

今回の研修では、10月に開催した「日高の海と山を味わう会」で各支部から出品したメニューの中から2品を選び、自分でも作れるようになろうと調理実習等の研修を行った。

まず、南部川生活研究グループの宮本啓子氏が講師を務め、「甘酒」づくりの実演を行った。宮本氏は、「コツをつかめば、簡単で失敗しない」と説明し、仕込みの様子を実演した。

次に、日高川町生活研究グループ川辺支部の小野博美氏が講師を務め、「鹿豚肉の煮込みハンバーグ」を調理した。シカ肉の消費拡大を目的とした「シカレディース」活動の一環として、シカ肉が苦手な人や子どもにも食べてもらいやすいメニューをとということで考案し、肉の割合を「鹿：豚＝7：3」にすることがおいしく作るコツだと解説した。

また、今回は印南町の出品料理であった「かき混ぜご飯」のレトルト食品の試作品を印南町生活・営農グループ連絡協議会の小田美津子氏が紹介した。印南町の郷土料理であるかきませご飯を、手軽に楽しんでもらえるようにと、レトルトの商品化に取り組んでおり、温かいご飯に混ぜるだけでかき混ぜご飯が完成するものであり、今後はイベント等での販売を予定している。

最後に全員で3品を試食し、研修会を終えた。会員は、「今まで作ったことがなかったものばかりだったので、挑戦してみようと思う」、「他の支部が頑張っているのを見て、刺激をもらった」等の感想が聞かれ、充実した研修会となった。



甘酒づくりの実演



鹿豚肉の煮込みハンバーグ調理



レトルトのかき混ぜご飯



試食会

VI 西牟婁振興局

1. アグリビギナー研修（野菜、農機具）を開催しました

振興局では、営農課題の解決や農業経営に関する資質向上を目的として、新規就農者や青年農業者を対象に、栽培技術や農業経営に関する研修会を開催している。今回、第2回目を開催し、2月20日に白浜町中のレタス栽培現地と有限会社サワイで行い、新規就農者5名と青年農業者3名が参加した。

白浜町中では、水稻と野菜の栽培農家で普及指導協力委員の山本孝一氏から経営概要と、現在の栽培品目（レタス、スイートコーン、一寸ソラマメ）に定着した経緯や栽培のポイントについて説明を聞いた。また、これまで新規就農者の研修を受け入れてきた経験から、経営の柱になる品目を持つこと、周囲の農家と連携できる人間関係を築くこと、横のつながりを大切にして技術を産地で共有することなどのアドバイスももらった。

有限会社サワイでは、農機具の保守点検について井出課長から小型農機具の中で使用頻度の高い動力噴霧機、エンジンコンプレッサー、刈り払い機、チェーンソーについて、作業前後の点検や長期保管する場合の燃料の扱い、チェーンソーの刃の目立てなど現物を用いての詳しい説明であった。

参加者からは、「山本氏の地域農業との関わり方が大変参考になった」、「農機具の保守点検の大切さを改めて認識した」などの感想が寄せられた。



山本氏のレタス栽培ほ場にて



農機具の保守・点検の様子

2. 平成29年度西牟婁地方農業士会連絡協議会経営研修会を開催

2月7日、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、西牟婁地方農業士会連絡協議会（木村則夫会長）が経営研修会を開催し、会員および関係者あわせて約70名が出席した。

この研修会は、農業士が一同に会し、今後の農業経営の向上、地域農業の発展、地域の活性化につなげることを目的にしている。

今回は、総務省地域力創造アドバイザー 金丸弘美氏から「食べ方提案で大きく動く農産物の売り方経済を生む新しい農業の力」と題して講演があった。

地産地消で成功しているところは、直売所で肉、野菜、弁当など地域に必要なものをそろえ、いいものはきちんと消費者に情報発信して販売している。

また、活力のある地域は、これまで農業、観光、商品販売などバラバラに活動していた事

柄をリンクさせ、お客さんに喜んで食べてもらえる、来て楽しめる、泊まって楽しめる、見て安らぐなど一体的な活動にしている。また、農産物をただ売るのではなく、食べ方のレシピをつけて提案することで、大きく販売が伸びているとのことであった。

なお、講演後には、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会の澤田剛志氏から、「労働力不足の解消を目指して」と題して、プロジェクト活動内容の発表もあった。



金丸弘美氏の講演



4HC 澤田氏の事例発表

3. 田辺生活研究グループ連絡協議会が「ジビエ料理」をPR

2月25日、田辺市中芳養で開催された第4回南紀田辺UMEロードマラソン（事務局：牟婁商工会内）で、田辺生活研究グループ連絡協議会（高垣せり会長）がジビエ利用促進のために鹿肉のシチューを約300食提供した。農業においてシカなどによる鳥獣被害が深刻である一方、シカ肉は、低カロリー・高タンパク質・低脂肪・高铁分な上、脂肪燃焼効果のあるL-カルニチンも豊富で、美容・健康に注目されており、味もあっさりとしてクセが少なく、どんな料理にも合う。

提供したシチューは、田辺鳥獣害対策協議会から提供されたジビエ本宮の鹿肉に、野菜をたっぷり入れてトマトベースのスープでじっくりと煮込んだ。ランナーや応援に駆けつけた人々から「あっさりして美味しい」、「ゴールしてから食べるのを楽しみにしていた」など大変好評であった。

グループでは農林水産業まつりや当イベントなどでジビエ料理をPRしており、今後もジビエは美味しく、かつ機能性もあることを主に地元イベントでPRしていきたい。

なお、2月24日には田辺市上芳養地区に有害鳥獣の食肉処理施設が開設されており、地元を中心にジビエ料理がさらに普及していくと期待している。



鹿肉をコトコト煮込んだ鹿シチュー



行列もできました！

4. 茶摘みへ向けて、春整枝！

2月28日、白浜市市鹿野滝地区の生産者園地にて、川添緑茶研究会（上村誠会長）のメンバー3名と西牟婁振興局普及指導員で春整枝を行った。

春整枝は、夏秋梢を残した状態で越冬させ春に整枝することで、収穫時期は若干遅くなるが、勢いの良い新芽を収穫できる。

整枝位置は樹勢などから決定するため、まずは整枝前に生育状況を確認した。

整枝は2人用の刈りならし機で行った。当地域では以前から2人用作業機を使用しており、家庭内で労働力を確保していたが、高齢化などにより家庭内での労働力確保も難しくなる中、生産者が助け合いながら共同作業する必要性を認識できる機会となった。

今後も、技術向上を目的とした生育状況の確認や栽培研修会を継続して開催するとともに、共同作業の機運も高めていきたい。



整枝の共同作業

5. 田辺生活研究グループ連絡協議会が加工講習会を開催

2月1日、田辺市民総合センターにて田辺生活研究グループ連絡協議会（会長：高垣せり氏）が漬物の加工講習会を開催し、会員22名が参加した。たくあんについては指導農業士の藤野準氏が、高菜漬けと白菜漬けについては会員が講師を担当した。

たくあんについては、大根を桶へ隙間なく詰めていくこと、保存中ににじみ出てくる液を除去しないこと、液中のカビは気にしないことなど、普段学べないことについて説明と実演があり、参加者は質問をしながら真剣に聞き入っていた。

高菜漬けのポイントは、塩水で3日漬けた後の揉み方とのことで、実演を交えながら説明を聞いた。

白菜漬けについては、簡単な漬け方として、漬物袋の中で白菜を塩で揉むだけの方法を実演を交えて紹介してもらい、参加者も一緒になって漬けた。

漬け方を知る機会も少なくなり、各家庭で漬物を作らなくなっている中、今回の試食を交えた実習は、上手な漬け方だけでなく、簡単で美味しい漬け方を知る機会となった。

田辺生活研究グループでは、今後も地元農産物の加工講習会を会員の意見を聞きながら開催していきたいとのことであり、今後も支援していきたい。



蕨野氏によるたくあん漬けの
大根の敷詰め方説明



高菜漬けのポイント説明
みんな真剣！

6. 第3回女性起業支援研修会を開催

振興局では、2月20日に上秋津農村環境改善センターにおいて6次産業化に関する研修会を開催し、起業を目指す女性17名が参加した。

講師は、岐阜県高山市でトマトの生産と加工・販売を行っている株式会社寺田農園 代表取締役の寺田真由美氏で、「どうせやるならかっこよく」と題し講演された。

寺田代表は、ホテル業界で仕事をしていていたが、結婚を機に就農し、「これからは女性も経営に参画したら」という夫の意向もあり、法人化と同時に代表取締役へ就任した。その後、自社ブランドを立ち上げ、3種類のトマトジュースやトマトを使ったカレーを開発・製造し、自社のアンテナショップで販売している。

数年前からは自社製品をもっと多くの人に知ってもらおうと、地元のイベントなどで試飲・試食販売したり、知り合いの美容院にも販売して利用してもらっている。

ただ、事業が軌道に乗ってきた頃、ご主人が急死。そのような中、商工会会員の知り合いが経営や工場の衛生管理について相談にのってくれるなど、人とのつながりを大事してきたことが、まわりからの手助けにつながっているとのことであった。

参加者らは「トマトの品種や商品の賞味期限はどのように決めているのか」、「加工場の建設費用は？」の質問をするなど、熱心に話を聞いていた。

なお、次年度も女性起業者を対象とする研修会を実施する予定である。



寺田代表取締役



研修会

7. 鮎川小学校で地元農産物を使った料理講習会を実施

振興局では、子供たちに地元の農産物や郷土料理について知ってもらおうと、2月2日に田辺市立鮎川小学校 6年生 23人を対象に、地元農産物を使った料理講習会を開催した。講師は上富田町生活研究グループ代表の平田秀美氏と同グループ OG で組織したアグリグループ代表の津軽貞子氏が務めた。

料理に使う地元農産物の紹介や料理方法について説明を聞いた後、班に分かれて「ほうれん草の白和え」「イタドリの炒め煮」「大学芋」「梅ジュース寒天」の4品を調理した。調理後は自分たちで試食し、みんな美味しそうにほおぼっていた。

なかでもイタドリについては、半数以上の児童は知っていたが、初めて食べる児童がほとんどであった。

なお、今後も地元の農産物や郷土料理について小学校などで料理講習会を開催するなど食育活動を推進していく。



料理の作り方を聞く児童



料理実習

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 農業機械安全研修会を開催

2月7日、農業水産振興課は大阪府堺市の「株式会社 クボタ堺製造所」に於いて農業機械安全研修を開催し、東牟婁地方農業士会（杉浦仁会長）、東牟婁地方4Hクラブ（石田大士会長）等18名が出席した。

クボタ堺製造所では、会社概要や農作業安全への取り組みについて説明を受けた。

全国的に農業機械使用時の事故(特にトラクター)が多発しているため、安全フレームやキャビンの強化等に取り組まれている。

農業者には機械作業前の点検やメンテナンス等を徹底し、作業時にはヘルメットやシートベルトの着用を心がけてほしいということであった。

その後、2グループに分かれてトラクターやエンジン等の組み立てラインの工場見学を行った。

参加者からは「農作業の安全について勉強になった」、「日頃使っている機械の製造ラインを見学できて良かった」等の意見があった。

次に、JA大阪泉州農産物直売所「こーたり〜な」へ行き、泉州地方の特産野菜、花き類等を調査し、今後の新規作物導入等にとっても参考になった。



農業機械安全研修



工場見学



JA大阪泉州農産物直売所「こーたり〜な」



2. アグリビギナー農業経営研修会を開催

2月27日、農業水産振興課はみくまの農業協同組合太田営農センターにおいて、新規就農者など若手農業者の経営者としてのスキルアップを目的として、アグリビギナー農業経営研修会を開催し、新規就農者・4Hクラブ員・関係者12名が参加した。

講演会では、東牟婁地方農業士会会長の杉浦仁氏から、経営感覚を養い、経営を確立し発展させるためのノウハウやそれに必要な農業簿記、確定申告についての話があった。

参加者からは「説明が解かりやすかった」、「農業簿記を行う利点についてもっと知りたい」など感想があった。

講演が終わった後、講師、新規就農者、4Hクラブ員等先輩農家、関係者などで意見交換を行った。参加農家が経営状況や農業簿記、確定申告の方法などを発表し、それぞれが意見や質問を行い、講師や先輩農家がアドバイスをするなどした。

また、普及指導員から収入保険制度について概要説明を行った。

最後に、和歌山県農業会議総合指導員の向井元治氏から、農業者の生活の安定及び福祉の向上を図るために農業者年金制度の説明があり、参加者全員が真剣に話を聞いていた。

参加者は、「こんなにお得な年金制度があったとは知らなかった」「前向きに検討したい」と話していた。

当課では今後も、新規就農者支援のための講習会等を開催していく。



農業簿記記帳、確定申告の説明



農業者年金制度の説明

VIII 農林大学校

1. 農学部果樹コースが県内研修を実施

農学部果樹コース1、2年の学生が、2月22日に県内研修を実施した。

県の試験研究機関である果樹試験場と果樹試験場かき・もも研究所では、最新技術や新品種について学習した。また、近畿大学附属農場（湯浅農場）では「マンゴー」の栽培について学習した。

果樹試験場

県内育成品種の「YN26」と「きょうき」の品種特性について学習した。また、新品種や珍しい中晩柑類の試食した。



中晩柑類果実の試食

果樹試験場かき・もも研究所

果樹コースのプロジェクト学習で取り組む「カキの結果母枝先端芽せん除技術」について学習した。



カキほ場での技術説明

近畿大学附属農場（湯浅農場）

湯浅農場では、柑橘類・マンゴー・水稻の栽培が行われている。「マンゴー」の栽培ほ場や「柑橘遺伝資源保存園」では、学生達が初めて聞く珍しい品種もあった。



マンゴーほ場での説明

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 平成 29 年度技術修得研修(第 2 班)が修了

2月9日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第2班）の閉講式及び営農設計発表会を開催した。閉講式では、昨年10月から2月までの計25日間、講義や実習により農業全般を学んだ17名に修了証書が手渡された。営農設計発表会では、自分が思い描く営農プランを発表し、意見交換を行った。

修了生が目指す農業経営の実現に邁進されることを期待する。



修了証書授与



営農設計発表会

2. 社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）修了式を開催

2月19日、就農支援センター研修館において、社会人課程修了式を開催した。

昨年5月から9ヶ月間にわたり研修をおこなった3名が、田辺産業技術専門学院の辻学院長から一名ずつ修了証書を手渡された。

また、修了式の後、研修修了生がこれまで学んできた知識と経験を活かして、自分が考える営農設計について発表し、意見交換を行った。

彼らは今後の和歌山県農業の担い手としての第一歩を踏み出した。



修了証書授与



営農設計の検討

3. 特別研修「果樹の接ぎ木」を開催

2月21日、就農支援センターにおいて、平成29年度技術修得研修第2班修了生で、果樹の接ぎ木研修を希望する7名に対し、ウメとカンキツの接ぎ木方法について職員が指導を行った。

まずは職員が砥石を使ってのナイフの研ぎ方や接ぎ木する際の枝の切り方、活着率を上げるコツ等について説明を行い、続けて研修生らは実際にナイフを手にして真剣に練習を行った。

「簡単に削っているように見えても、自分ではなかなか真っ直ぐには削れない。」「思っていたよりも難しいことがわかった。」などの声が聞かれた。

今回の研修を機に今後も練習を重ね技術を習得されることを期待したい。



枝の削り方を学ぶ



実際に枝を削ってみる

4. UIターン就農相談フェア in 和歌山を開催

2月25日、和歌山ビック愛において、県と県農業会議、県農業公社が主催の「UIターン就農相談フェアin和歌山」を開催した。相談会には、県内への就農を考えている19組25名から相談があり、新規就農者向けの資金や林業就業相談、農業法人等就職相談、移住相談ブースも設置し、幅広い相談内容に対応した。

また、農林大学校や就農支援センターの研修修了後、新規に就農された2名を講師に迎えた「新規就農セミナー」を開催し、就農当時の苦労話や、収入や収益といった、なかなか聞きにくいようなことも聞くことができ、有意義なセミナーになった。

次回は、3月11日（日）に就農支援センター(御坊市)で開催を予定している。



就農相談



新規就農セミナー

X 経営支援課（農業革新支援センター）

1. むらとくらしを考える会議を開催

2月16日、県は県生活研究グループ連絡協議会（宮地スミ子会長）と共催でむらとくらしを考える会議を県自治会館（和歌山市）で開催した。当日は、「食と農を支える私たちへ私が変わる、何かが始まる～」をテーマに活動事例発表や講演があり、約150名が出席した。

会議の冒頭、グループ活動を通じて地域の活性化に貢献した女性及び高齢者グループの表彰式を行い、くにぎ広場・農産物直売交流施設組合加工部（橋本市）、NPO太田の郷（那智勝浦町）をはじめとする6グループを表彰した。

活動事例発表では、海南市生活研究グループ連合会から地元農産物を活用した加工品づくりや食育の取組について紹介があった。発表者の松田吉恵氏と藤井佳子氏は、「今後も手づくり味噌の魅力を多くの人に伝える活動を続けながら、男の料理教室の開催など新しいことにもどんどんチャレンジしていきたい」と抱負を語っていた。

午後からは、オトメゴコロ泉州おむすび代表の義本紀子氏から「あなたと泉州を結ぶ」と題して講演があり、おむすびで町おこしを始めた経緯や活動内容を中心に起業にあたっての苦労話や食材へのこだわりについて話があった。他に、各地方から加工品や農産物の展示即売会も行われ、参加者は積極的に情報や意見を交換し、交流を深めていた。

これを契機に、農村女性の起業をはじめ、地域活動のステップアップにつながることを期待している。



活動事例発表

2. 平成29年度和歌山県青年農業者会議が開催されました

2月13日、標記会議が和歌山県4Hクラブ連絡協議会（山本宗一郎会長）、（公財）和歌山県農業公社（和歌山県青年農業者等育成センター）の主催、県の協力のもと、湯浅町の総合センターにおいて開催された。青年農業者53名、農林大学校19名、県内の農業系高等学校（紀北農芸、有田中央、南部、熊野）39名、関係者23名、合計134名が参加した。

本会議は、直面する農業経営上の問題解決や農業を取り巻く問題を研究討議することで地域農業の発展に寄与するとともに、農林大学校及び農業関係高等学校の学生に対し、就農に対する意識を向上させることを目標として開催しており、当日は、県内の青年農業者が一堂に会し、日頃の調査研究活動や自らの経営の成果、目標等について発表を行った。

青年農業者からは、プロジェクト発表9課題、意見発表2課題の計11課題の発表があり、当センターの川村農業革新支援専門員を審査委員長に、6名の審査員（革新支援専門員、農林大学校副校長、農林大学校就農支援センター所長、県農業公社事務局長、県農業士会会長、県4Hクラブ会長）で課題の内容、計画や実施、評価と反省、発表について審査が行われた。

審査の結果、最優秀賞（知事賞）にはプロジェクト発表を行った湯浅町4Hクラブの井上信太郎氏（農村の新たな担い手と産地のファンづくり～無償型ワーキングホリデーの可能性～）、優秀賞（県農業公社理事長賞）には意見発表を行った印南町4Hクラブの新谷力氏（あの時の出会いで今がある）、奨励賞（県4Hクラブ連絡協議会会長賞）には和歌山地方4Hクラブの西村洸介氏（地域を巻き込んだ食育活動）が選ばれた。

なお、井上氏及び新谷氏については、来年2月に大阪府で開催予定の近畿地域農業青年会議において、それぞれプロジェクト発表部門及び意見発表部門で県代表として発表する予定となっている。

また、審査時間を活用して、農林大学校生及び高校生から特別発表（プロジェクト発表、意見発表）が行われるとともに、交流会として青年農業者及び学生が生産する農産物等の展示や試食、意見交換が行われた。



受賞者

（左から西村氏・新谷氏・井上氏）



交流会

2. 県農林水産業のリーダーを認定

～ 平成 29 年度農業士・林業士・漁業士認定式を開催 ～

2月20日、和歌山市内で平成29年度の認定式を開催した。

式典は、県農林水産業の中核的な担い手でリーダーとして活動している方を農業士、林業士、漁業士として認定し、認定証を交付するもので、農業士については昭和51年認定から認定を行っている。今回は、91名（うち農業士は74名）に認定証が交付された。

式典で、知事は「それぞれが経営力を高め、後進を指導していただきたい」と式辞を述べ、これに対し紀の川市の指導農業士 中浴泉氏が認定者を代表して「地域力を高めるため、より一層努力します」と決意表明した。

また、当日は年度末をもって認定解除となる指導農業士19名に対する感謝状贈呈が行われ、出席者1人ひとりに知事から感謝の言葉とともに手渡された。



知事から認定証を交付



認定解除となる指導農業士へ感謝状贈呈

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489